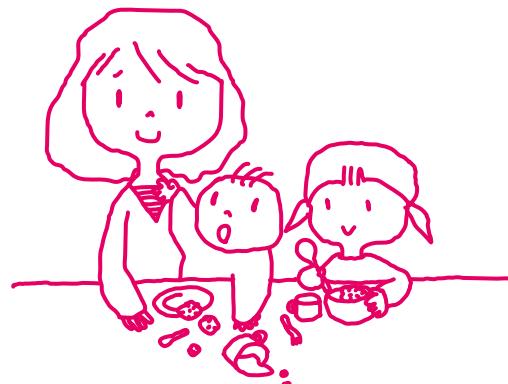




はたらきたい

リスコと出会った10人の、それから。



あなたの「はたらきたい」を応援します

リスコ
Rehabilitation Staff Consult
<http://www.risuko.com>

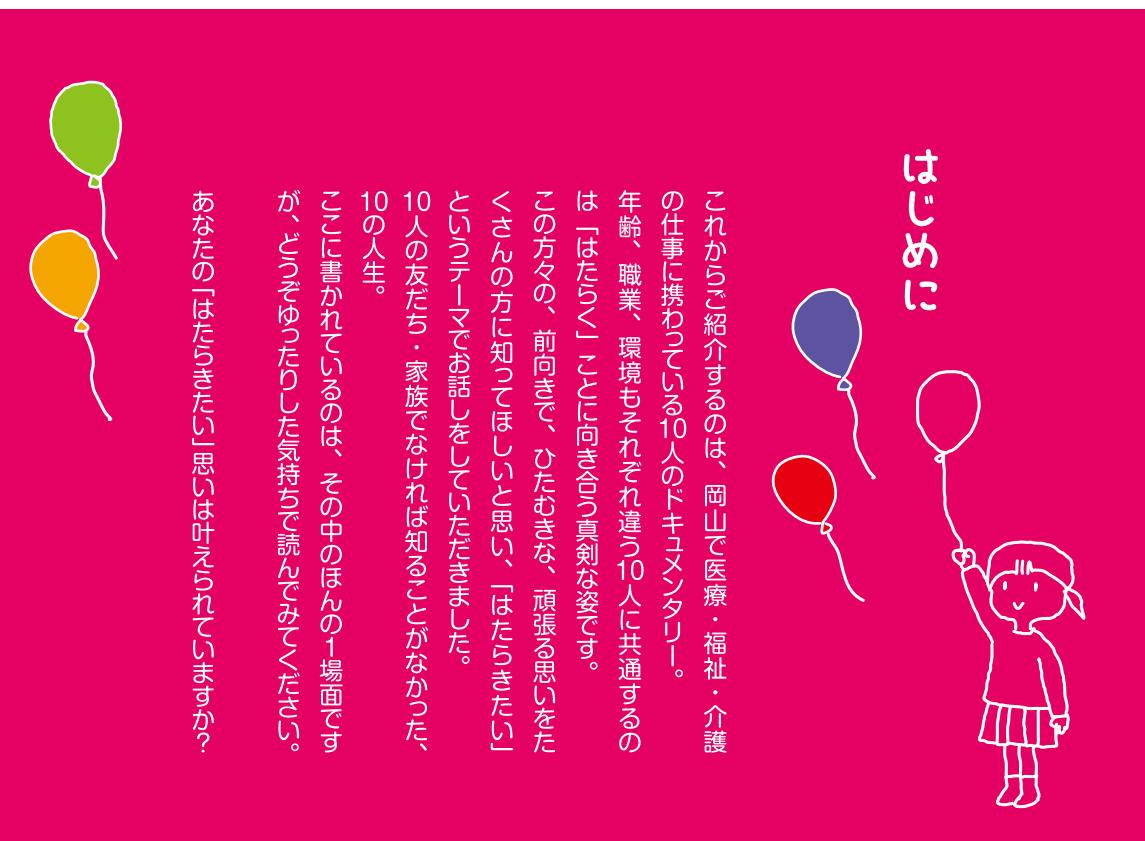
株式会社リスコ
岡山県岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル8F
0120-235-565
[厚生労働大臣許可]派遣事業／一般労働者派遣事業(般33-300044)紹介事業／有料職業紹介事業(33-ユ-300017)



——*——*——*——*——
この企画を紹介して頂いたのは、私たちコーディネーターの心に勇気や力を届けて下さった方々。辛かった・苦しかった、という過去を振り返り、その思いを語つてくださいました。心より感謝申し上げます。
この出来事を胸に刻み、今後も「はたらきたい」と願つていらっしゃる方々を、深く見つめ応援してまいります。

コペコ

これからご紹介するのは、岡山で医療・福祉・介護の仕事に携わっている10人のドキュメンタリー。年齢、職業、環境もそれぞれ違う10人に共通することは「はたらき」ことに向き合つ真剣な姿です。この方々の、前向きで、ひたむきな、頑張る思いをたくさんの方に知ってほしいと思い、「はたらきたい」というテーマでお話しをしてじたきました。
10人の友たち・家族でなければ知ることがなかつた、10の人生。
ここに書かれているのは、その中のほんの一場面ですが、どうぞゆったりした気持ちで読んでみてください。
あなたの「はたらきたい」思いは叶えられていますか?



contents

子どもたちの心に寄り添いながら	看護師／養護教諭・28歳
同期とは1年遅れ それでも飛び込んで	看護師・23歳
突然の病に打ち勝つ	理学療法士（PT）・25歳
子どもを育していくために	看護師／介護支援専門員／福祉生環境コーディネーター・43歳
外国人の夫をサポートし 家族の暮らしを守るために	看護師／保健師・42歳
障害といつ壁を越えて	言語聴覚士（ST）
「命の現場」で	看護師・55歳
臨床経験はまだないけれど	理学療法士（PT）・28歳
2年前みたいに元気な私に戻れたら	看護師／介護支援専門員・46歳
子育てもひと段落 これからは自分のために	看護師・51歳

risuko's message

永遠の可能性を信じて

リスコにお越しになるのは、転職・職業を考えておられる方々です。その多くは、何かしら心の隅に抱えているモノや言葉、気持ちを聞いてほしい、気付いてほしい…と思つてしまします。
何時間もお話をすることもあります。最初は不安気だったお顔も、みなさん笑顔になられてお帰りになられています。
中には就職のご案内ができることもあります、ただ、ひとつでも共感できる事柄を分かち合ひ、一緒に語り合えるお付き合いをさせて頂けたら、と思っております。
人には永遠の可能性があります。そして色々な生き様があります。その人らしく生活できる環境へとたどり着くため、私たちが手を繋ぎ一緒に道を切り開ければと願っています。諦めない強い気持ちこそが自分の目標を勝ち取るのでしよう。私たちは、これからもそういった方々の「はたらきたい」を応援し続けます。

子どもたちの心に
寄り添いながら



新卒の看護師がいきなり精神科に入職して、いうパターンは少ないですよね。今、精神科に勤務していますが、以前でもやめていた経历の方はほんの数人です。

精神科との出会い

在学中、学生たちに精神科で働くことの素晴らしさが、あまりにも伝えられなかつたからだと思つんです。

「学校ではこんな風にしてくるんだから」
「学校と医療がもつと関わつてられれば、安心
して通学できるのではなか」…。そして、
なんとなく感じて、教育と医療の垣根
を取り払つたために「何ができるのか」を探
りたいと考え、急性期の病院を辞め岡山大
学に編入。学校と医療の関わりを学び、養
護教諭の資格を取得しました。

在学中も臨床から離れたくなかったし、現場経験を積みたかったのですが、当時、私は国家試験予備校で講師もやっていまし

学生時代のテキストには書き込みがビッシリ！でもこのころ精神科についてあまり学んでいません。

う制限もあるので、その後の職場探しはどう制限もあつた。掛け持ちの勤務で時間が限られるといつても、半ば仕事として受け入れる。た。

「なんで私が？」といつのが率直な第一印象。でも、そこには児童精神科があつて、「こ ciòなら、突き詰めたかった小児医療の領域に携われるのでは？」といつ「コーディネーターさんの説明で興味がぐんぐん湧いてきました。

これこそが看護の基本

精神科で実際働いてみて、こんなに学びが多い
多い職場だったのか、と驚きました。精神
科に偏見をもつていたる看護師の方には、是
非それを知つてしまつて思つてました。
いじでは、どんなときでも患者様のことを
考えてつります。「今、何したのかな?」「こ

これまでどんな人生を歩んできたんだろ
ハ~」「どんな人と一緒に暮らついたの?」
など深じいものまで把握して、家族のよ
りに心を添わせます。

例えは、私のじる病棟の患者様は、脳や心にある障害が理由で家族と暮らし難くなつた子どもたち。幼少期に形成されてしまつた人格に問題があれば、それを一日崩し、更地にしてから、もう一度育て直していく必要があります。10代半ばにもなれば反発も自己主張も力もある。家族のように毎日過ごしてくるので、言い争いや喧嘩もしそうあります。どれもこれも全部受け止め、信頼関係を築いていくのは生半可な気持ちで

私が発した一言が患者様を元気になると
もあるし、しなやかにさせてしまう」とわ
かる。逆に私たちも本気で接してくるから、
患者様から受けける影響が大きい。とにかく
「心」。精神科は看護師にとって、患者様を
思つ心が育てられる職場だったのです。

職場の仲間に支えられて

コーディネーターさんに紹介され、初めて出合った児童精神科の仕事。「私、今まで何やつたらいい」と思ひほど、この領域に引き込まれ、正職員になりました。プライマリー（入院から退院まで患者様を一貫してケアする役割）も任せられ、中学2年生の女の子を担当。これまでチームの中でサポートはしていたものの、自分がプライマリーのメインとなるのは初めてでした。女の子の状態と自分の能力を客観的に見るとヘルプが必要。「お願ひします」。とベテランの副師長もチームに巻き込みま

した。その中では、私が少し年上の姉さん、男性職員が歳の離れたお兄さん、そして副師長がお母さん。そんな役割分担で女の子をケアし続けています。

今、女の子は「抱いたこと」と「私を離さない」という言葉で、たぐさんお喋りして喧嘩して仲直りしたり、絆を深めてきました。自分を大切にできなかつたその子が、幼児のように素直に自分のしたこと・ほしこいとをそのまま口に出せると、じぶんまで心を取り戻しました。私も女の子と一緒に成長しています。彼女との関わりを通して、新たな学びをたくさん得ました。

人の心に触れる」とは簡単ではあります。まだまだ、思つよつてかなることや辛つゝことがたくさんあります。でも、それを一つ一つクリアするたびに充実感があります。全てが患者様のために繋がっているので、その過程も樂しみであります。

「心を育てる」。これって看護師として、すくなくして基本的で大切なことではなうでしょつか。だから、私はむとつたゞさんの新卒者や若い看護師さんにも精神科を経験してほしくと思つてます。



子どもたちの健康を願う

子じむを取つ巻く環境には、「今後変えて
かなぐわやうなつたるでは?」と思つ点
についてはあります。自分の手じまいもだ
きるか分からぬじめ、何かしきチャレ
ジしてしまったことがありますね。

いつか実現できたらいいと思つてゐます。まずは、自分がもつと経験を積まねばなりません。いつも課題をもつて、解決して喜んで、成長していく自分を楽しんでいたいのです。

どんな職場でも大切なのはチームワークだと思います。慣れてなくとも、難しくても、そばに支えてくれる人がいたら乗っかることで、必ずやる

三
皆
君
の
お
も
て
な
し

自指す道に進んでいく行動力にはいつも驚かされます。子どもたちのことを思つ優しい心で、新しい看護の在り方を確立される日を心待ちにしています。

PROFILE

28歳。正看護師・養護教諭。最初に小児を担当したときがきっかけで小児医療への強い思いがあります。「きたい」と思えば夜勤明けでも県外へドライブ。趣味は自転車。建築中のマイホームには室内にロードバイク用の自転車専用スペースもしっかり確保しました。

同期とは1年遅れ
それでも飛び込んで



妊娠発覚

私の通っていた医療系の短期大学は、3年生になると春から実習が始まります。看護学生として最後の実習は、約20週間という長丁場。学生として現場を学ばせてもらひえる貴重な機会なんです。

ところが、「これから実習だし、気合いで入れなきや」と思っていた矢先、妊娠が発覚しました。

実習初日は4日後に迫っていました。頭の中はグルグルのパニック。私が赤ちゃんを産む？ 産めるの？ 学校は？ 休むの？ 辞めるの？ 彼氏に言わなくちゃいけない、親にもわからん…。

長く立つてうなづいた。申し送りの最中に席を外す回数もあり、「妊娠を理由にせよ、しつかりやつたら」という気持ちばかりが度回つてしまつた。

「大丈夫? 休んでらうよ」と声を掛けられると、友だちもいましたが、夜勤が免除されるなどと、妊娠しているかいないかおもふふらふらして、どうしてこの間、おもむろに立つてうなづいていたのか、なぜかわからなかった。

出産・試験、そして卒業

12歳年上の彼氏（現在の主人）は「学校を休んで産んでほし」と言いました。自分でも「やつあるしかなーな」と思っていました。

でも両親は違いました。勇気を出して「妊娠した」と告白すると「学校を休むのは許さん。妊娠でもちゃんと学校に通つて国家試験も予定通り受けなさい」と言いました。「えーーー私のお腹、大きくなつたから…」自分での中で育つてじく命を守りながらやつてこかるんだのいか、と実習を前に怖気づきました。不安だらけでしたがその時の私はやるしかありませんでした。

突然的な出来事でしたが、子どもを説明するところの選択肢はありませんでした。

疲れていましたね。精神的にスタスターで
訪問看護の実習先からは受け入れ拒否も。
また、実習先のベテラン看護師さんたちの
目も友好的なものばかりではありませんで
した。「勉強しに来ておる場所で、みんな
に気を遣わせておるん
だから当然だ」と自分
自身に言い聞かせて耐
えました。

そして、妊娠9ヶ月の頃
まで続いた実習をなん
とか乗り切りました。



一生使える資格を取りたいと思つ

一生使える資格を取りたいと思って田舎した看護師の仕事。ずっとこの資格を活かしていきためにむし現役に近づきながら、たくさんの学ばなきゃですね。

ママとしても看護師としても、これから本格的にスタートです。なんとか乗り越えた実習の苦労をバネに、新しく挑戦にも飛び込んでじけたりっこなど思つてます。



歩くのも上手になった娘は1歳2ヶ月。保育園でお友だちがたくさんできたらいいな

看護師アビリティを前に

子どもが一歳を迎える頃、「看護師として働きたい」とこの感じが高まつてしまつた。同期が既に職場で頑張つてゐる、と思つと「私も」とうづくづしてしまつた。

て漠然と思っていた私ですが、今は子供のことが最優先。近所の小さなクリーナーを探してみよう、と考えてきました。ところが、「スケ」からは「ゼロからのスター」なので、先輩がいて指導してもらえたる職場がいいのでは?何より子どもと家庭が一番だから、仕事との両立のためにパート勤務を探してみませんか?」とアドバイスをもらいました。既に「フランク1年、しかも実務未経験で職員が大勢いるところに行つて大丈夫だろうかと心配しました。でも、そう言われてみると「それか」と思つたとばかり。

PROFILE

23歳。一番の癒しはアンパンマンが大好きな娘の寝顔。朝から晩まで娘とベッタリ過ごすのも幸せいしかったが、やっぱり外にも出たらい・保育園に迎えに行つた後は、思いつきり2人の時間を楽しめた。患者様には「任せ安心」と思つてもらえる看護師になりたいです。

突然の病に打ち勝つ



僕が「てんかん」?



高校の野球部の仲間と。ファーストを守っていました。怪我はたくさんしましたね。

自分が「てんかん」だなんて。仕事を辞め治療の日々。自室で横になり、日中天井を見つめてしまつた。発作の原因を探つていいく中で医師からは、新しい生活環境によるストレスが発作の引き金になりました。

なったのがいいと語れました。

帰郷、新しい職場 たつた人に任せられた仕事

発作の引き金だったのは、岡山に帰ったときからの生活。帰郷してから月間ほどのことでした。僕はそれまで埼玉で暮らしていたのです。

PT(理学療法士)の資格取得をめざし進んだ大学が埼玉にあり、卒業後そのまま就職。就職先はちょうど慢性期から回復期リハビリーション専門病院への変革期で新卒として、組織づくりやマンンの導入などに一から関わっていました。毎日がワクワクで楽しかった。若く仲間も多く、リハビリスタッフは総勢80名。患者数も増え、病院も、僕の仕事もまく軌道に乗つてしまつた。

彼女も半ばバーマスク状態。最初は状況が読めず「ちょっと…動物園の次も行へどいいあるんだからねー」なんて、救急車に運ばれる僕に呼びかけていたそ�です。

突然発作が起き、その場から動けなくなつたのは伊豆旅行の最中。僕は彼女の動物園でスタッフのラリーを楽しみなが、口元を忘れるひと時を過ごしてしまつた。急に意識がもつれつつ、そのあとは覚えてしまふ。彼女が助けを呼び、僕は救急車で現地の病院へ搬送されました。

「何が起つたの?…どうこうと…」

彼女も半ばバーマスク状態。最初は状況が読めず「ちょっと…動物園の次も行へどいいあるんだからねー」なんて、救急車に運ばれる僕に呼びかけていたそ�です。

詳しげ検査を受け、診断名を聞いたときは衝撃でした。

僕が「側頭葉てんかん」だと書いたのです。

小学1年生からソフトボールをはじめ、中学校時代は硬式野球のクラブチームに在籍。高校時代は甲子園出場に近づ野球部のキャプテンとして、100名の部員を束ねていました。練習中の骨折や靭帯断裂で病院にお世話になることはありませんでしたが、24歳のそのまで自分が発作を起すといひなど想像もしませんでした。

自分が「てんかん」だな

くて…仕事を辞め治療の日々。自室で横になり、日中天井を見つめてしまつた。発作の原因を探つていいく中で医師からは、新しい生活環境によるストレスが発作の引き金になりました。

治療が進み、僕は「デイサービスセンター」に再就職を果たしました。地元とは言え、大学からの県外に出でた僕にとって、仕事のことを話せる相手は岡山にあまりいませんでした。ですから、いかにも見つた当初から仕事の相談をしていたところにははづられませんでした。

岡山へ帰つて直ち近くの病院で採用されましたが、これがなければ、僕は自分の限界を突破して、どれくらい耐えて続けていたのかですね。父の「いい」を思ひ、そつとつかぬままでした。

じいさんが、就職から1年半経つた頃、父が病に倒れました。僕は、父はもうろく、母のことが心配でした。仕事はまちまち面白くなつてしまつたが、退職し、彼女を残し、埼玉での生活を引き揚げることに決めたのですね。父の「いい」を思ひ、そつとつかぬままでした。

でも今は、発作は自分の体が発信したの

ので、それに気がついて良かつたと感つてこ

ります。あれがなければ、僕は自分の限界を

無視して、どれくらい耐えて続けていたの

でしょう。

また、治療期間があつたからJIN、自分が

家族や周りの人たちから支えられてくる

ところ新たな気づきを得ました。父と対話する時間ができました。自身の成長もありました。苦しかった時期を越えたからいい

今がある、と思えます。

再就職から2ヶ月間。全く知人がいない職場でたつた一人、孤独な戦いが続いていました。患者様の数も多く、加えてハザード部門を取り仕切りながらの想像以上の労働でした。

思つ返せば、職場には頼る人がいませんでした。こんな感じでも、それを誰とも

共有できなかつたのが、心の負担だったの

かもしません。

家には、待つてくれる家族がいる、と

じう安心感があつましたが、余命を平穀に

過ぎた父、そんな父の看病に力を注ぐ

母の姿を見るとい、自分が弱音なんて吐いて

じる壊れじやなつ、と思いました。

両親に心配な点をかけたくなく、心臓が強

り過敏でしたのか、心の限界ははつとむ

氣づかずになりました。

両親に心配な点をかけたくなく、心臓が強

り過敏でしたのか、心の限界ははつとむ

氣づかずになりました。

未来の話をしてくれた彼女の存在は大きかったです。何より、岡山に引っ越して来てくださいましたが、僕の励みになりました。

未来の話をしてくれた彼女の存在は大き

かったです。何より、岡山に引っ越して来て

くださいましたが、僕の励みになりました。

未来の話をしてくれた彼女の存在は大き

ナビキを育てていったために

私はシングルマザー

父親はいません。現在中学生の息子は、生まれてから現在まで、私が一人で育ててきました。

看護師という資格があったからいいので、やつむけられた、とも思っています。24時間いつでも子どもの預かるNPOのサービスや、病院の院内保育を利用して、夜勤がある看護師の仕事を育てをやつきました。

両立…といふと、できただかどかは自信がないですね。やはり「私が稼いで育てるんだ」という意地があつたし、息子を育てるため思ひ入れば、業務に追われながらも、その忙しさを心地よく感じていました。正

めつた。樂してなあ、と思つ反面ねじやべつ遊び、何気なし仕草…、息子に対しあれこれと感じなくなつたのが出てきました。

それまで、まったく気付かなかつたのですが、複数の子どもたちの中で遊ぶ息子を見ると、「あれ? ウチの子つて、ちょっと他の子たちと違うんじやない?」そんな風に思つようになりました。

性格なのかな、放つておいても大丈夫かな、…でも、やっぱり放つておけな」とこの結論に至つて病院を受診。最初の病院では多動症と言われました。しかし、その診断が脳に落ちず再度他の病院を受診。そこにはアスペルガー症候群だと診断されたのです。

何だらか、2度目の診断にはシヨックもありました。息子がどうしてこんな風のモヤモヤしてたのかハッキリ分かつたといふと、気持ちの整理ができた感じでした。

息子は「やりたくなつたじや、でもやつてしまつて、この手が勝手に取つてしまつて」と泣きながら答へました。息子自身やうのじこじかわからぬ、心の苦びだつたと思いまか。

息子のいじが心配でした。「私一人の力でやつと育てあげる」とができるのだけれどか」と、ひとくち不安がありました。

「もうじまへんづつあげられなかつたのか」と、自分を責めるといふとおつました。そばにずっとやつたら、でも生活していくために、私は何としても働かなくてはなりませんでした。

息子が小学校に通つてゐる間は、時間の融通をある程度聞いてもらえる介護・福祉系の事業所に勤務。しかし、勤務時間が少ないため、いつも病院勤務の時より収入が低くなります。資格があるのに活かせ切れないので、でもフルタイムの看護師はできな

直、仕事を没頭しきれて息子といふやんと向

き合せてじなかつた時期もあると反省して

います。

働いてくる母親にとつて、子どもが小学校に上がるときつて大変なんだよね。1年生なんて学校はお昼過ぎに終わつちゃう。保育園は夕方まで預けることができたし、夜勤の間も任せつけられる。なのに、小学校で学童保育がなじと、たちまち勤務に支障が出来るんです。

そんなタイプばかり、ひとりあそぶ息子が小

学校生活に慣れるまで、一日仕事を辞めることにしました。失業保険をもらつてじぶん間に、子育てのために時間を融通しやすい次の職場を探さうと思つてました。

アスペルガーと診断されて

それでも働かなくては

息子が近所に住む友だちのお金を取りついでいたことがあります。向かいのお宅に謝りに行き、下下座をして帰つきました。

そのじも「」の手は何のためにあるの? 「あつたじも」「」の手は何のためにあるの? 「あつたじも」が感謝して呟つきました。誰かを助けてあげるためにあるんよ」と言つ聞かせたのですが、後日、再びお金を取つてしまひました。

息子には時々、気持ちを「」ヘルプで

なじことがあると分かつてながら、私は気持ちを抑えきれず、「なんで? なんでそんなじじわる? そんな悪いじじをする手は切つ放つてしまつたりこふよ」と激しく問つ詰めてしまつました。

「」の解決できない苛立たれだ、心が押しつぶされやうになることが何度もありました。



息子が中学生になる頃には近所の整形外科でパートをしていましたが、収入を増やすためにもう1カ所、勤務しやすい場所で働きたい…と考えリストに登録。その頃には息子も少しおりついてしまつた。夜の留守番も任せられるようになつていていたんですね。

仕事を辞めて、息子と過ごす時間が倍増し

夢に向かって

若じいねば、助産師の資格を取つたことがあります。お金を貯めて専門学校に行く準備も進めていました。仕事にのめり込んだりやうタイプなので、那时も、もっと勉強して学び詰めたい、と思つていました。

それからお金も貯まるところ頃、妊娠していましたが、後悔はつてしまふ。

息子がいたから今の私がいる。息子の生活を通して、人間としてやつてやつてやつてやつたために、私は何としても働かなくてはなりませんでした。

息子が小学校に通つてゐる間は、時間の融通をある程度聞いてもらえる介護・福祉系の事業所に勤務。しかし、勤務時間が少ないため、いつも病院勤務の時より収入が低くなります。資格があるのに活かせ切れないので、でもフルタイムの看護師はできな

いなりたじか」はまだ聞いてしませんが、就職は大きな課題になるじつといつ。これまで児童相談所に何度も通つて、面談を重ね、息子に対する先必要ないとや、私がまだ先は見えません。

いつか、息子が夢を叶えられたとき、私の夢も叶うのでしようね。

現在は「」で生活を支えてじぶんしゃじます。体に無理なく働ける場所が見つかって私たちも嬉しじです。まずは息子さんの夢、そして、専門看護師になつて活躍したい、という夢が早く叶えられますように!」

risuco's message

43歳。正看護師、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター。内科、外科、整形外科、グループホームなどを経験しました。正確さとスピードが求められる科の仕事が好きです。とにかく今は子供との生活に精いっぱいですが、いつかエキスパートを目指したい!

PROFILE

43歳。正看護師、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター。内科、外科、整形外科、グループホームなどを経験しました。正確さとスピードが求められる科の仕事が好きです。とにかく今は子供との生活に精いっぱいですが、いつかエキスパートを目指したい!

外国人の夫をサポートし 家族の暮らしさを守るために

モンゴル人男性と結婚



モンゴルの観光地にて。主人は、故郷を愛する心、家族を愛する心が強い人です。



実家には飛び出でて行つたきり連絡できましませんでした。優しく迎えてくれて、まるで日本の家族を思えば、どうしても受け入れてくれない日本の家族を冷たく感じることも。反対を押し切つて出てきたので、「何と言つて連絡したらいいのか」

留学が終わり彼の帰国を前に「結婚しよう」と約束しましたが、私の実家はそれを許してくれませんでした。「絶対モンゴルに行かせない」と話はつまでも平行線でした。当時父は病気で容態が思わしくなかつたのですが、彼との約束を果たすため、私は家族を振り切りモンゴルへ向かいました。

病気の父を残した後悔

モンゴルでは100人以上の親戚が集まり結婚式を挙げました。親戚たちは私を大歓迎してくれて「今度の休みはうちに来て」と親しみをもつて家に招待してくれます。周りのみんなが、温かくておおらかな雰囲気。町の様子も言葉も分からぬ私を、いつもでも気遣つて包み込んでくれていました。妊娠・出産もモンゴルで経験し、生活は順調に進んでしましましたが、日本の家族、父への気がかりは常に心にありました。

出合は看護学校が企画する海外旅行。私は複数の候補地の中からモンゴルを選択し、彼は通訳としてその旅行をサポートしていました。参加者みんなでメールアドレスを交換。その後、彼が留学で来日し、連絡を取り合うようになりました。

留学が終り彼の帰国を前に「結婚しよう」と約束しましたが、私の実家はそれを許してくれませんでした。「絶対モンゴルに行かせない」と話はつまでも平行線でした。当時父は病気で容態が思わしくなかつたのですが、彼との約束を果たすため、私は家族を振り切りモンゴルへ向かいました。

就職できない

日本に帰国しました。子どもはまだ6ヶ月でしたが、すぐに自分が仕事をしなくてはならない状況でした。理由は、主人の仕事が決まりなかつたからです。日本語は流暢なのに、モンゴル人だとうだけで、ほとんどの職場から不採用を告げられました。生活のためには私が働くしかありません。子どもを院内託児施設に預け、用事への回の夜勤がある救急病院で勤務しました。

エキスパートを目指して

主人の仕事を軌道に乗せ、再び看護の職場を探しました。看護職しか考えられず「主人の仕事を手伝えるように」「子どもとの時間も確保できるように」と、パート勤務を希望し、リストに登録しました。

紹介されたのは精神科病院急性期の閉鎖病棟。患者様は一人ひとり、外から施錠できる部屋にいます。最初は何だか怖いイメージがありました。突然大きな声、泣き声が

と迷っぽかり。子どもが生まれたのをきっかけに、やつと実家へ連絡を入れました。すると「お父さん、お前が帰つてくるまで絶対死なん、と頑張つてゐる」と母が教えてくれました。「気にホームシックが私を襲いました。父に会ひたい、会わなくちゃいけない」と、帰国を決意。主人は快く一緒に日本で暮らすといつて貰いました。

聞ひます。勤務を開始したばかりの頃は、その音や光景にショックを受けていましたが、3ヶ月を過ぎた今ではすっかり慣れて、服が着れなくて怒つても、大声を出しても、どれもが「どうしたらいいかわからぬ」、「助けて」と訴えるための表現だと分かつたからです。裏がない素直な気持ちで「ありがとうございます」と、いつも笑つてくれる患者様のために働いていきたい、できればあつといこの職場にいたいと思つてあります。

今はパートでの勤務が私にとってベスト。週4日、日勤のみで家庭と育児、主人の手伝いを両立させています。この先、子どものが離れたり正職員として働きたいですね。そして専門看護師の資格も取りたいと思っています。精神科のことをもっと知りたじ気持ちでいっぱいなのです。勉強してこの領域を極めていくつもりです。

結婚を大反対して、いた実家とは、未だにあまりの雰囲気が続いている。愛する故郷を離れ、日本に来てくれている主人のためにも、実家が彼のことを受け入れてくれる良じのすけど。いつかこの関係に、雪解けの日が来るのことを願つてします。



risuco's message

モンゴルのご家族が来日の際のピザ発行や保育園申込みなど、手続きには色々苦労しましたね。現在の職域に興味を持たれ、意欲を持つて働いていひつこやるといひ、ホッとしたしました。

PROFILE
42歳。正看護師・保健師、キャリア5年。モンゴルで働けなかつたので日本で看護師として働けるのが嬉しい。日本とモンゴルでは子育ての常識が色々違います。向こうでは羊の糞便が離乳食になつたりね。うちの子も糞便を吸つてしましました。面白いですね。

「命の現場」で

「自然には子供が授からない」
私がなり



30年前、私が嫁いだのは、おじいちゃんとおばあちゃんと、お父さん、お母さん、妹、叔母が一緒に住んでいた大家族。結婚前に遊びに行けば、「あがつて行かれ」と招かれ、巻きすじの清物、にぎやかな雰囲気で歓迎してくれる田舎の農家だった。

一方私は、おもと複雑な家庭環境で幼少期を過ごしもった。祖母に育てられたということもあり、大家族の暮らしに憧れがあつたのだが、一人で暮らすと云ふこと、言つててくれた主人の両親に、「一緒に住みた」と申し出たのは私の方でした。

伝統のある家でした。幼い娘をおばあやおじい任せ、私は看護師として復職しました。選んだのは産科でした。

「まだ前には妊娠できなかった。不妊治療・病気を経験して、命を授かることの大変さ・素晴らしい生きこの体で知った。そんな私がかりに、妊娠で悩む女性たちの気持ちを分かってあげられる、何よりもがんばる」と思つた。

ある」という使命感がありました。

あなたは一人ぼっちじゃない

このまま可能な限りやりたい。産科で勤務するなり、と助産師助手の資格を取得。妊娠したときは、私のできる全てのケアを提供しよひと夢中になりました。

「主人はほんのいい方、」両親・お姑さんはどんな協力をしてくれている? どんな言葉を掛けたりコラックスできるか? うれしから症状は改善しましたが、それは絞り出す姿がたまらなく好きでした。顔をくっつやくっつにして頑張つてゐるのを見つけると、つぶつと駆け寄つて応援してしまつます。綿棒を片手に、赤ちゃんの顔とお尻を交互に見つめ、「カンパシー」と声を掛けてつぶやく私を、同僚たちは半ば呆れ顔で見ていました。

この世に生を受けたことを真剣に見つめ、また、生きていこうと無我夢中の赤ちゃんたちの姿に毎日感動していました。

「無事産めたよ、ありがとうございます!」「あなたに抱っこしてもらつて、まだきっと抱っこ1年間でした。

重さーキロになつてしまつた腫瘍 摘出後には更年期、そして乳がん

赤ちゃんは本当に奇跡の存在です。細くて小さな指を全身の力で握ります。

私は、赤ちゃんたちがはつめてのウンチを絞り出す姿がたまらなく好きでした。顔をくっつやくっつにして頑張つてゐるのを見つけると、つぶつと駆け寄つて応援してしまつます。綿棒を片手に、赤ちゃんの顔とお尻を交互に見つめ、「カンパシー」と声を掛けけてつぶやく私を、同僚たちは半ば呆れ顔で見ていました。

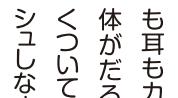
この世に生を受けたことを真剣に見つめ、また、生きていこうと無我夢中の赤ちゃんたちの姿に毎日感動していました。

「無事産めたよ、ありがとうございます!」「あなたに抱っこしてもらつて、まだきっと抱っこ1年間でした。

じいじが伝えたが、と必ずでした。

じいじが伝えたが、と必ずでした。

じいじが伝えたが、と必ずでした。



にも製造機がつきました。田

も耳もカサカサ、声が出ない、全

体がだるい、気持ちに体が全

くつぶつと行かない...。ソフレ

シユンなさい、サブリを飲みな

れこひ勧められながら耐えて

じいじに症状は改善しましたが、それは

わざと勧められながら耐えて

臨床経験はまだないけれど

韓国人だから



国家試験をパスし、専門学校を卒業。岡山に帰つて結婚生活が始まりました。

専門学校卒業と同時に結婚

主人は韓国人です。日本語を勉強するため来日していました。知り合ったのは、私が働いていたバイト先。私は4年制の大学を卒業後、「将来は何か役に立つ資格を持ちなさい」との父の勧めでPT(理学療法士)の資格取得を目指し、神戸の専門学校に通つてきました。

主人との同棲がスタートしましたが、両親には知りせていませんでした。もちろん、彼氏が韓国人だとついひととも言えませんでした。だつて、資格を取るために、学費を出したわりに、神戸に住まわせてもらひつづけたのですから。それに男性

散々苦労してやつと結婚できても、住民票に主人の名前は載つてません。私は「早く子どもを産んで、その後早く働きたい」と思つてじたので、すぐに年子で女の子、男の子を出産。上の子はもう2歳になつていますが、今も氏名欄に記載されているは自分で子どもの名前だけですよ。主人の名前は欄外。なんだかとても切なじです。

私も頑張る

と住んでくるなんて知れたりぬかやくわや怒られるに違ひありません。でも「卒業したらこの人と結婚する」と決めていました。主人は韓国に一日帰国し自分の家族に私の存在を報告。あつさつと結婚の許しを得て戻つてきました。

しかし、私の方は簡単にはつきません。思つて「結婚したい」と両親に話しましたが、予想通り激怒されました。

当然です。しかし、そつだと分かつて「ながらも、私は「何で許してくれないの?」私たちは何も悪いことなんとしてない」と憤つてきました。若かったんですね。

主人は、私の父におぼつかない日本語がぎりぎり詰まつた手紙を書きました。便箋8枚くらうがあつたでしょうか。それで許してくれた訳ではありませんが、何ヶ月か話し合ひを重ね、最終的には「お前は言い出したら聞かない子だから」と父に結婚を認めてもらひました。

定ひに働けたり、精神的にも楽じむか。

risuco's message

リスクに登録しましたが、最初は一人で探せると思つていました。でもなじんですよね、自分の理想にピッタリの職場ついた。資格は持つていても臨床経験はゼロ。訪問リハビリの求人がありましたが、いきなり一人でなにて無理です。「初めての職場は医療機関がいいな。でも、未経験OKで、先輩がいて、子育てしやすい職場なんて見つからなじ」と諦めかけたとき、リストから仕事の紹介が。ホッとしながら「保育園はどうしたら?」など就業前の問題について色々相談しました。

そして「本当に経験がなくてじの~」といつ不安もあつて職場見学に行くと、そこは私が思つ描つたよつたな場所。リハビリの先輩もじつにしゃるクニーリスクでした。



国家試験をパスし、専門学校を卒業。岡山に帰つて結婚生活が始まりました。

主人は韓国人です。日本語を勉強するため来日していました。知り合ったのは、私が働いていたバイト先。私は4年制の大学を卒業後、「将来は何か役に立つ資格を持ちなさい」との父の勧めでPT(理学療法士)の資格取得を目指し、神戸の専門学校に通つてきました。

主人との同棲がスタートしましたが、両親には知りせていませんでした。もちろん、

彼氏が韓国人だとついひととも言えませんでした。だつて、資格を取るために、学費を出したわりに、神戸に住まわせてもらひつづけたのですから。それに男性

散々苦労してやつと結婚できても、住民票に主人の名前は載つてません。私は「早く子どもを産んで、その後早く働きたい」と思つてじたので、すぐに年子で女の子、男の子を出産。上の子はもう2歳になつていますが、今も氏名欄に記載されているは自分で子どもの名前だけですよ。主人の名前は欄外。なんだかとても切なじです。

私も頑張る

韓國のお国柄なのですが、主人は家族をとても大切にしています。韓国の両親や兄、姉へは頻繁に電話。特に母への愛情・尊敬が強くて、私が自分の母の愚痴をじぼじぼして「お母さんこそなんと言つちゃうかな」と叱られちゃうんですよ。

同じように私と子ども大切にしてくれます。主人が岡山で最初に勤めた先では韓国人だからと疎外され、10キロ以上瘦せるような辛い時期もありましたが、今は新しい仕事を見つけ、家族のために一生懸命働いてくれています。休日は子どもを連れて公園で遊んでくれたり、家事を手伝ってくれたり。とても助かっています。

主人は順調に働きだしたばかり、やはりこの先ずっと働けるのか、じつ不安があります。外国人だからです。みなすべく早く私も働きたいと思つてきました。自分が安

子育て中だとこの主任のPTさんが「私も、もう一度勉強しなおす気持ちで教えるからね」と語つてくれたのが心に残つてます。じよじよ今から勤務がスタートします。あ、その前に子どもたちの保育園アビゴーもあるんだつた! 最初はぐあつちやうかもしませんね。早く慣れて貰いますよ!」ママも頑張るからね。

PROFILE
PT。まだ実務の経験はありません。専門学校の実習でお年寄りのリハビリを担当し、高齢者のために技術・知識を深めたいと思つました。例えば、体が思うつて動かす。家にこもりがちな方々の状態を少しでも改善したい。外出するとコロナの姿に近づいてついてしまった。

子育てもひと段落



これからは自分のために

懸念とせん

乳がんの手術から7年、毎日子どものことで頭がいっぱい。自分の時間に何かしようとして仕事に出よう、なんてことはまだ考

一九四〇年

私は現在51歳。ですが看護師歴はわずか4年しかありません。これまで、子育てに体

育児が多忙だった時期を過ぎ、「復職したい」と思ったときは、自身の乳がん。そして手術後、復職を考えた時には、小学6年生だった娘が「じめを受けている」と発覚。不登校などもあり、長い間、自分の気持ちが「はたらきたい」と、前向きにはなりませんで

特に、娘のことを学校の先生から告げられ
たときはすゞしくショックでした。娘は毎朝

「行くつてもおあす」 と「」「玄関を出て行くつてこたんぢやか！」 そんな笑顔を「頑張つてこたんだわつな」と懶て出せば出でせじ 気付いてやれなかつた自分が歯がゆくて仕方ありませんでした。「ついかたたね」と趣を掛けたとき、初めて娘は泣きめられていました。涙を見せました。それまでわざつと、私の気づかないとひひで、たくわん涙を流してましたんだと思つます。

娘が楽しく過ごせるように」と学校に色々お願いもしましたが、いじめは中学校でもありました。娘は、友だちのことで気持ちが滅入つて、登下校中に変質者に出会いてしまつという災難があり、私が車で送迎をする毎日。不安定な気持ちのまま進学した高校でも娘の体調はすぐれませんでした。とにかく山のように心配があつて、私自身も相当疲れしていました。

明るい兆し

休学が転機となつたようです。

娘は通信制の高校で勉強を始め、大学進学を目指すようになりました。もともと料理が好きだったので、管理栄養士の資格を取

そんな私と看護職を近づけたのがリストです。登録後、ブランクのある人を対象にしたセミナーに参加しました。注射や喀痰吸引を体験したり、嚥下障害を学ぶことで、少しづつ昔の感覚が戻ってきていました。なんだかワクワクしたんですよ。

ちよつとう場の短期パートが終わった頃「お元気ですか?」と「コーディネーターさんからメールがあり「看護職に挑戦したい」と相談しました。新卒後に勤務した施設とよく似た雰囲気の施設を探してもらいました。がんのこともあり、ブランクが長かった

聞こじてもりつてたので、勤務は日勤のみ。業務もいじめたりとしましたチームで、協力していながらやつてかけそつの職場でした。

大変な時期を乗り越えてこられました。職場でも、ほんわかした雰囲気で患者様を癒して差し上げて下さいね。

**risuco's
message**

PROFILE
正看護師 新卒後は重度障害者施設に入職。総合病院でも勤務しました。現在大学生2人への出費がピークですが、あと数年の辛抱だと思ってやりくりを頑張っています。主人と息子の趣味はハイク。私もいつかは歩いて日本一周に挑戦したいなと思っています。